

# ぬくしな 温品

## 歴史再発見 ～ふるさと散策

かわて ぼくじょう あと

# 川手牧場跡

Former Site of Kawate Dairy Farm

大正15年(1926年)の温品川(府中大川)の大水害によって荒れた農地を肥やすため、この地に川手牧場がつくられました。

太平洋戦争末期の昭和20年(1945年)8月に、牛舎の一部に中国新聞社の輪転機が疎開のため移転されました。原爆被災後まもなくの同年9月3日には、ここで印刷された新聞が発行されたのです。

大正15年の大水害までの温品川は、森垣内橋から大きく東に蛇行しており、現在の温品中学校の下付近から西に流れを変え、温品橋付近で現在の川と合流していました。大洪水により、当時、温品川右岸にあった川手さんの土地も土砂に埋もれて農作物ができなくなったため、荒地の肥沃化のため牛糞を得る目的で牧場を始めたといわれ、多い時には100頭以上の乳牛が飼育されていたそうです。

しかし、太平洋戦争末期には労働力と飼料が少なくなり乳牛の数も減ったので、牧場の閉鎖を考えていたところ、昭和20年4月頃、牛舎の空き地に中国新聞社の輪転機を疎開させる話が持ち上がり、同年7月、当時最新鋭の「電光超高速輪転機」の運搬が始まり、中国配電(株)(現在の中国電力)からの200V電気も通じ、8月6日には試運転が予定されていました。

その8月6日、原子爆弾が投下され広島市内は壊滅しましたが、ここに輪転機が疎開されていたため温品での印刷が開始されて、9月3日には「温品版中国新聞」初版が発行されたのです。

しかし9月17日の枕崎台風で輪転機は水浸しとなり、印刷不能となりました。

このように、川手牧場には、戦後の広島復興のひとコマを支えたという歴史があります。



川手牧場の建物(昭和初期)



温品川大水害後の修復工事の様子(昭和2年(1927年))。後方に川手牧場牛舎

『輪転機 疎開先 参集』  
1945年 月 日 本社 全焼  
家族 奪、放射線急性障害 襲  
島市郊外 温品村(東区) 台 輪転機 疎開  
信機能 広島 都市機能 破壊  
取組 被災地広島 新聞「温品疎開工場」始

中国新聞、原爆死 免 社員  
。山 村 通。広  
。自力印刷 送電 通  
。發行再開  
2012年 月21日 中国新聞掲載